

さであったり、旅に付随するものを体験させたりすることも必要ではないか。

- (6) 観光人材のカリキュラムに限ったことではないが、物事を決める上で最後はそこに住む人だったり“人”で決めることが多いように感じるので、自分自身を磨く、コミュニケーション力も含めて人間力を高める、そういった部分に重きを置いた授業も重要だと思う。

議事2 観光産業人材カリキュラムにおける教育カリキュラム（案）について

西谷部会長から、観光産業人材カリキュラムにおける必要な科目内容（座学）について、今までに頂いた意見等踏まえ発言願いたい旨説明があり、概略次のおり意見等があった。

- (1) 起業家という観点でいくと、実際に起業した人の立志伝を聞かせることが一番インパクトがあると思うので、起業家の生の声を聞く事ができたり少しでもそれに響いてもらえるようなカリキュラムがあればいいと思う。
- (2) なぜこの企業が繁栄したか、なぜそれがだめになった後復活したのかなど、その理由をデータとともにひも解き検証していくというような事例研究（ケーススタディ）がカリキュラムに必要ではないか。
- (3) カリキュラム（案）で提示されている「観光基礎概論」などの部分で、世界の状況や世界の観光など、大きな枠から見ていったほうが視野の広がり方が違うように思うし、学生も整理整頓がしやすくなると思う。
- (4) インターネットでどのように情報発信し集客していくかなど、観光産業に特化したあるいは全学部共通した授業として、IoTや情報発信、ITリテラシーなど、IT関係の授業も必要だと思う。
- (5) マーケティングと近いかもしれないが、心理学という部分が意外と重要だと思う。顧客の消費者購買の心理、選んだ背景に何があるかなど、そこを突いて観光業をやっているところは少ないので、そこに気づいた人こそ起業しやすいのではないか。

引き続き、西谷部会長から、観光産業人材カリキュラムにおける必要な科目内容（フィールドワーク）について、今までに頂いた意見等踏まえ発言願いたい旨説明があり、概略次のおり意見等があった。

- (1) 1・2年次の早い段階で外に出して、色々体験させる。他を知り比べることによって、自分たちの強みや弱みも理解できると思う。また、自分自身が旅することと同時に、他の動きを見たりなぜこの場所に来ているのかなど、実際に感じる機会があればなおいいと思う。授業が有機的につながっていくようなカリキュラム構成ができれば大変魅力的だと思う。
- (2) フィールドワークなど、一回やって終わらせるのではなく、反復するから身につ

くものだと思うので、コアになる授業をいくつか決めて、それを年次ごとにスキルアップしていくやり方も必要なのではないかと思う。

- (3) 県内観光の底上げにも資するような人材育成につなげるのであれば、フィールドワークの中に、青森県の観光資源をリサーチする、あるいは実体験などの内容を入れたほうが良いと思う。
- (4) 世界から見えていて、その中で青森を見る、そこから強みを知り、最後青森ならではの集大成にもっていくようなカリキュラムではどうか。最初に4年次にはこうなりたいなど目指すものを宣言した上で進めていくといいかもしれない。
- (5) 企画・実践・プレゼンの繰り返しの中に座学が入ってくるようなカリキュラムであれば、授業を受けていて面白いし、起業家を育成していく上で、近道のような気がする。
- (6) 起業するということは、どこかにビジネスチャンスがないとできないと思うので、旅の中で、どこにチャンスが転がっているのかを考えながら旅をするフィールドワークなど、そのような内容が入っていると気づく力や発想力が伸びていいのではないか。
- (7) 起業とは稼いでいくことなので、金の回り方、収支、地域内での資金の循環モデルなど、お金のことも幅広く学ぶ必要があると思う。

最後に事務局（弘前大学 森）から、大学・学部の色々なルールがあり、すべての意見をカリキュラムに反映させるのは難しいが、現在実施している教養関係の授業なども活用し、履修証明プログラムというかたちで観光産業人材プログラムの検討構築を進めたい旨説明があった。

以 上

表1 じょっぱり起業家育成カリキュラム<観光系科目>※部会意見を集約したもの

座学	実践 (フィールドワーク)	備考
観光概論 (世界)	旅	1年次：PDCA
観光概論 (日本)	インターンシップ	2年次：PDCA
起業家講演 (ベンチャービジネス論)	企業見学	3年次：PDCA ↓
ケーススタディ	マーケティングリサーチ	4年次：集大成
マーケティング	地域リサーチ	
ITリテラシー		
コミュニケーション学		
心理学		
ビジネスチャンスを見つけ方		
会計学		

※色：座学とフィールドワークが連動しているカテゴリー

6-3. 第3回 じょっぱり起業家育成観光産業プログラム部会議事要旨

日 時：平成29年1月13日（金） 13：30～15：00

場 所：弘前大学創立50周年記念会館 会議室1

出席者：西谷雷佐（合同会社西谷 特任准教授），柳生敏孝（株式会社楽天野球団），町田直子（NPO法人ACTY），佐藤大晃（青森県企画政策部 木村委員代理）の各委員

陪席者：竹内恭介（青森県庁）

事務局：森樹男，熊田憲，高島克史，大倉邦夫，葛西裕美，中屋敷雅江

議事1 第1回観光産業プログラム部会検討事項の整理，確認について

西谷部会長から，第1回，2回観光産業プログラム部会決定事項の整理，確認について，配布資料に基づき説明の後，事務局（弘前大学 森）から，観光人材養成プログラム（案）について概略次のとおり説明があった。

・観光人材養成プログラム（案）について

- (1) 方向性としては，新しい科目名称をつけて新規のカリキュラムを実施することが難しいため，今ある科目を活かしながら，その科目の中に観光部会で議論した内容を入れ込み実施していく方向で考えている。
- (2) 観光人材養成プログラム（案）は，学部の授業，大学の授業で観光に関わりがありそうな科目をピックアップして，その中に観光の専門的な知識を身につけるような授業を入れ込んでいく。この授業を一通り履修した学生に対して，最終的に修了証を出すイメージである。
- (3) 社会人向けのプログラムと学部生向けのプログラム，二本立てで実施する予定である。学部のプログラムについては，「ベンチャービジネス論」「サービス経営論」「観光基礎概論」など，起業家に関わる授業やサービス一般を学ぶもの，観光について学習するプログラムで構成する予定である。社会人向けのプログラムについては，食産業プログラム部会で検討している食PRO. と連動させ，起業に関する授業を共通として30時間，また，食産業，観光産業それぞれ専門的な科目を各30時間用意し，残りは実践科目や事業計画演習などを入れ込む予定である。

議事2 観光産業人材プログラムの策定について

西谷部会長から，観光人材養成プログラム（案）について，部会で議論した内容をプログラム（案）の科目にどのように反映させるか発言願いたい旨説明があり，概略次の表2のとおり意見があった。

表2 弘前大学人文社会科学部 観光人材養成プログラム (案)

学年	分類1	分類2	科目名	内容	観光人材育成に必要な科目内容 (部会意見を集約したもの)
1年	共通	起業	ベンチャー企業論	ベンチャー企業の経営者による講義(8~10人)+ グループディスカッション	起業家講演(座学)
			経営学入門	経営学の基礎的講義(理論中心)	
			会計学入門	会計学の基礎的講義(理論中心)	会計学(座学)
			統計学入門	統計学の基礎的講義(理論中心)	
			その他教養科目	ローカル科目, 学部越境型地域志向科目など	
2年	共通	サービス	サービス経営論(特設)	サービス経営に関する理論	観光マーケティング(座学)
			サービス企業論(特設)	サービス企業3社のケーススタディ。サービス企業 による実践的講義	ケーススタディ(座学)
	専門	観光	観光基礎概論(特設)	近年の観光に関わる全般的な動向, 青森県におけ る観光の現状や着地型観光の事例。観光プラン考 案のための発想法に関わる演習(個人ワーク, グル ープワーク)	観光概論(世界) 観光概論(日本)
			青森の観光振興と地域活 性化(特設/寄附)	青森県の観光に関わる実践者による講義と津軽海 峡を巡るフィールドワークにより学生による観光診断 を通して地域観光を見る目を養う	旅(実践)
	実践	起業・ 観光・食	事業計画演習Ⅰ	事業計画立案(個人ワーク)	
			事業計画演習Ⅱ	事業計画立案(地域企業の課題をもとに実践的グル ープワーク)	ビジネスチャンスを見つけ方(座学)
	3年	実践	起業・ 観光・食	ビジネス戦略実習Ⅰ	学生カンパニー設立, 地域企業の課題を理解し, 課 題解決のための方策をより具体的, 実践的に提案
ビジネス戦略実習Ⅱ				同上	
スタディツアー					企業見学(実践)
インターンシップ					インターンシップ(実践)

引き続き、西谷部会長から、履修証明プログラムカリキュラム（案）に基づき説明の後、科目名称や履修時間について発言願いたい旨説明があり、概略次のとおり意見等があった。

- (1) 履修証明プログラムカリキュラム（案）について、ターゲットは誰なのか（観光に従事している人が受けるのか、従事していない人が受けるのか）によって、どの部分から始めればいいのかなど、必要な履修時間が変わってくるのではないかと。
- (2) 観光基礎のところ、旅行代理店の分野の話やホテルの経営者の話など、企業人講話があると、社会人は聞いてみたいと思うのではないかと。
- (3) 極めようとするならば、起業をするための技術を入れていくことを考えるのか、専門性を高めて起業したくなるような気持ちになるところを重点に置くのかということが重要だと思う。一番最初の基礎の部分で、地域に観光がもたらす影響、何のために観光が必要なのか、その先に何があるのかということも含めたところを解明していくことで、そこから観光が始まるのではないかと。
- (4) 実際に働いている人が社会人の講座に行く目的は、どちらかというと知識を身につけたくて履修するケースが多いように感じるため、実践よりも知識の内容を拡充したほうが良いのではないだろうか。

これに対し事務局（弘前大学 森）から、履修証明プログラムについては、部分履修ができるので、必要な科目だけを履修するやり方もある旨補足説明があった。

また、最後に西谷部会長から、観光産業プログラム部会で審議した内容を整理し、起業家育成、食の分野という3つを併存させたものとして履修証明プログラム、学部向けのプログラムを次回の全体委員会で提示し、最終的に調整していく旨説明があった。（表3）

以上

表3 履修証明プログラム_カリキュラム_科目名称及び必要履修時間（部会提示案）

	科目名	必要履修時間
専門（観光）	観光の基礎	6
	日本の観光コンテンツ	4
	世界の観光コンテンツ	4
	観光マーケティング&リサーチ	4
	スピーチコミュニケーション	4
	起業人講話	8
実践	インターンシップ	10
	企業見学	10
	フィールドワーク	10

7. 参考資料

経済産業省 産学連携サービス経営人材育成事業 中間報告会資料

(2016年10月28日～29日 於 IPC生産性国際交流センター)

弘前大学 めざせ!じよっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業

上半期の成果

食産業・観光産業

(1) 大学における取組

- ・ 昨年度開発した観光系プログラム(講義)を実施。
観光基礎概論に71名が受講。
「青森の観光振興と地域活性化」(JR東日本寄附講義)に11名が受講。(参考資料①)
- ・ 昨年度開発した観光・サービス系実践プログラムを実施し、13名(2チーム)が受講。
- ・ サービス系科目としてサービス経営論を試行し、15名が受講。
- ・ 観光系海外インターンシップ(台湾)を試行し、8名が受講。
- ・ 弘前市と観光講座設置の検討開始(寄附講座)(参考資料③)

(2) 企業・産業界との連携

- ・ 地域企業で構成する「じよっぱり起業家育成検討委員会」において観光産業部会と食産業部会を設置し、プログラム構築を加速化。
- ・ 実践系プログラムでPBLを実施するにあたり、地域企業4社と連携。また、学生の事業計画を金融系企業がリアルに評価する授業を開始。
- ・ 昨年度より実施しているJR東日本寄附講座が強化され、大学院レベルでの観光系科目の開設が可能となった。

下半期の動き(P R 点、上半期の課題を踏まえた修正点)

- ・ eラーニング教材(DVD)が完成予定(ベンチャービジネス論)。
- ・ JR東日本寄附講義「データで考える青森県の観光戦略」(大学院市民カレッジ)。10名以上の受講をめざす。(参考資料②)
- ・ 観光講座(寄附講座)の平成29年度設置をめざし、弘前市と協力の協議を進める。
- ・ 次年度試行予定の食系科目の開設準備(フードビジネス論、青森6次産業化論など)



1

(参考資料)


①「青森の観光振興と地域活性化」

取組課題：学生目線による観光診断
アイデア出しではなく、各地域の観光コンテンツを体験し、学生(=20歳前後の若者)の立場からみて、そのコンテンツが楽しめるものなのか、興味関心を持てるものなのか、また来たいと思えるものになっているかなど、いくつかの指標をもとに診断し、レポートする。

津軽海峡交流圏周遊視察ルート
ルート案：弘前市～木古内町～函館市～大間町～むつ市(大畑地区)～弘前市

②「データで考える青森県の観光戦略」



2

経済産業省 産学連携サービス経営人材育成事業
めざせ！じょっぱり起業家
青森の魅力を高める中核人材育成事業
平成 28 年度 事業成果報告書

平成 29 年 2 月

発行

弘前大学人文社会科学部内
サービス経営人材育成事業事務局

〒036-8560 弘前市文京町 1 番地
電話：0172-39-3978 e-mail：sjinzai@hirosaki-u.ac.jp